

資 料

(大火のフォークロア・データベース)

コラム「大火のフォークロア」

火にまつわる言いつたえ

「火事を出すと三代^た崇^たられる」と、全国的に言い伝えられている。今から50年ほど前までは茅^{かや}屋根の家も多く燃えやすかったために、一軒の家で火事を出せばたちまち集落全体に広がった。そのため、日常生活では火事に関する俗信が多く伝えられている。

火事に関する俗信を大きく分けると、火事の予兆に関することと、火の禁忌に関すること、火事が起こった際の火の防ぎ方の3つに分けられる。火の防ぎ方については後に述べることにして、ここでは予兆と禁忌について例をあげる。

予兆については、動物に関連するものと、気象条件に関連するものがある。「夜に犬がほえる」と火事がある（秋田県能代市）、「家からネズミがいなくなると火事になる（秋田県各地、山形庄内町（旧立川町）」、「カラスの水遊びは火事がある（秋田県）」、「川原雀（カワセミなど）を捕ると家に火がつく（秋田県横手市）」、「めんどりが鳴くと火事が起こる（青森県平賀町）」など、動物がとる普段とは異なった行動から火事が連想されたのである。また、「ツバメが巣をかけている家は火事にあわない（山形県川西町）」のように、火事を防ぐ動物もおり、ツバメをとったりいじめたりすると火事になるとも言われている（青森県下北郡佐井村、秋田県各地）。

火事の起こる気象に関して一番多いものは、「月のそばに星ができれば火事になる」というもので、秋田、山形、青森県で伝えられている。そのほか、「火柱が立つと火事になる（青森、山形各地）」、「夕日が赤く大きく見えると火事がある（秋田県大館市）」などがある。いずれもなじみの深い動物や、見慣れた天気の中かで日常とは異なった行動や現象が起こると火事を連想したのは、それだけ火事が日常生活において身近な恐ろしい存在であったためであろう。

火事を防ぐために、火の扱いについても様々な言い伝えがあった。今のような暖房器具がない時代、家の中で火を焚いて煮炊きをしたり暖をとったりする囲炉裏^{いろり}が生活の中心的な場所であった。「囲炉裏の縁に上がったり傷をつけると、親の頭を踏んでいるようなものだ（山形県）」、「囲炉裏の火に皮・種・ヘタを投げると病人が出る（青森県佐井村）」、「炉へ卵のカラを投げるな（同佐井村）」、「囲炉裏に唾をはくと火の神様にとがめられる（秋田県鹿角市^{かづの}）」、など様々な禁忌があった。また炉をかきまわすと寝小便をする、夜中に青坊主（化け物の一種）が出ると言われたり（同佐井村）、囲炉裏に足を入れて灰がついたりすると、直ちに塩を振って囲炉裏を清めたともいう（山形県米沢市）。

火の怖さを伝えるために、子どもが怖がるものを俗信に巧みに混ぜることによって、大人たちは火の恐ろしさを上手に教えていったのである。

家を建てる時の防火対策

日本の家は木造建築が多く、農家では茅葺き屋根が多かったので、どうしても火に弱い。

そのために、昔から人々は家を建てる際に火除けのまじないを随所に取り入れてきた。

茅葺き屋根では、切妻部分に「水」や「龍」などの字を書いたり（青森・山形・秋田各地）、茅屋根の母屋や小屋の棟木の両側に、カラスと呼ばれる小横木をつけたりして（山形県山形市）、火事除けにした。

庭の樹木には、茅屋根を火災から守るものとして梨を植えたり（秋田県鹿角市）、火事除けとして、柳や桂・梨（地梨）・オンコ（いちい）を植えるともいわれた（青森県東通村）。このような縁起のよい木はほかにもミズキがあげられる。山形県山形市では、カマドの近くにある柱を釜柱というが、その柱にはミズキを使ったという。ミズキは「水の木」に通じるからといわれている。

建築儀礼の際にも、火事を防ぐためのまじないがある。柱や梁を建てることを建前というが、この時に雨が降ると喜ばれた（青森県十和田市）。秋田県上小阿仁村では家を建てる際にチョウナ祝いというものを行うが、その際大工はマサカリ、チョウナ、マガリガネを地面に並べて「水」の字を形作り、火伏せのまじないをしたという。このように、火事除けには水に関連するものを多く用いた。

また、上棟式などでは天と地の神様に捧げるという名目で、見物人に様々なものが投げられる。例えば山形県米沢市では、上棟式に餅や銭、こんぶ、するめの他に大根などをまく。大根は消化がよく、「胸が焼けでない」ことから「棟が焼けでない」に通じ、火伏せにつながるからである。上棟式に銭や餅を投げることは各地で行われているが、この時に投げられた餅を焼いて食べることは火事につながるからといい、決して焼いて食べてはいけない（秋田県鹿角市、山形県米沢市）。

この時に投げられた一文銭（現在は5円玉が多い）は、火棚の上にあげられ、火除けのまじないとされた。火棚とは、囲炉裏の上につけられた平台で、角材や丸太を格子状に組んだものである。濡れた衣服を乾かしたり、食物を置いたりする目的に用いられたが、火棚自体も、囲炉裏の火が茅屋根にうつるのを防ぐための役割を担っていた。このように、家の中には様々な火事を防ぐためのまじないが隠されていたのである。



写真6-1 火災予防の鰻絵と「龍」の字（秋田県秋田市太平）

火伏せのお守り

火の災いを避けることを火伏せという。火伏せのために有効なお守りとして、どのようなものがあるだろうか。

1939年（昭和14年）12月、山形県のある地域で火事が起こった。人々は屋根に上がり、女の腰巻を振ったり、コウボウヶ原（古峯ヶ原）の掛物を竹にさして屋根に立て、火が飛んでこないよう祈ったという（清野久雄「火事の話」1982『庄内民俗』復刻合本 庄内民俗学会）。

「火事の時に女の腰巻を振ると火をよけられる」という俗信はほぼ全国に伝えられている。理由ははっきりとは分からないが、わざと下にはくものを見せて、不浄なものを嫌う火を除けようという風に考えていたのであろう。この他、「隣家の火事には屋根の角に登って箕で仰ぐ（青森県六ヶ所村）」などもあるが、圧倒的に火を除けるためには腰巻が使われることが多い。

ただし腰巻きや箕は、日常生活では火伏せと道具と考えられてはおらず、火事が起こった時にのみ、火を防ぐ効力を発するようである。

それでは普段の生活の中ではどのような火伏せのお守りがあるだろうか。さきほど述べた上棟式の時に投げられる一文銭もお守りのひとつであるが、代表的なものは火伏せの札である。冒頭の火事では古峯ヶ原の札が使われていたが、火伏せの神で全国的に有名なものは秋葉神社、愛宕神社、古峯神社とされている。仏教では不動明王なども火伏せの神であり、山形県周辺では羽黒山の牛なども挙げられる。これらの札は集落の者が毎年何人かで神社を詣で、集落の人数分の札をもらってきたり、宗教者が各集落へ札を配りに来たりすることで信仰が広がっていったものである。

他にも、各集落の神社や寺院でも火伏せの札が配られており、火伏せの神は各地様々である。もともと火伏せの神ではなくても、集落内で火災が起こった時に類焼を免れた神社や寺院があると、「ご神体があらわれて火事を救った」という伝説が生まれ、新たな火伏せの神が誕生していく（秋田県男鹿市・山形県羽黒市）。

火伏せの札は、神棚や、普段火を使う場所にもおさめられる。囲炉裏のあった頃では、火を防ぐための札はたたんで自在カギに結びつけたという（青森県十和田市）。現在でも火伏せの札は各家に配られ、コンロの横などに貼られることが多い。

また、年に一度各家に配られ現在、正月頃に消防団から配られる「火の用心」の札も、信仰的な意味はないが立派な火伏せのお守りといえよう。



写真6-2 火の神（右）と水の神（左）の札
秋田県大仙市 秋田県秋田市金足

火事が起こりやすい日

1年のうちで火事が起こりやすい日というものがある。この日には火事が起こらないように様々な火伏せ^{ひぶせ}の行事が行われていた。

火事の起こりやすい代表的な日に初午^{はつうま}がある。暦の上で立春を過ぎた最初の午の日は火事が起こりやすいといわれ、「初午の日は火を起こして茶を飲まない（秋田県横手市（旧増田町）、山形県米沢市と東置賜郡）」、「初午の日に焚き付け用の杉の葉を市場に売りに行くと、火の回りが早くなるといって水をかけられるために売りに行かない（秋田県横手市（旧山内村））」などの言い伝えがある。また、この日厄年（男42歳、女33歳、男女60歳）の者がいる家の屋根に水をかける風習は秋田県各地で伝えられており、現在でも地域の消防団がホースで屋根に水をかけているという。

初午の日に火事が起こりやすいといわれる理由ははっきりとわからないが、この日は稲荷神の祭日とされており、稲荷神が火伏せの神としても信仰されていること、また初午は現在の2月頃にあたり、火の始末などに注意をようした時期だからではないかと思われる。

このほかに火事が起こりやすい日としては丙午^{ひのえうま}の年（「火の兄」につながり、火が回りやすいと考えられた）や、^{こうしん・かのえさる}「庚申」の日などがある。どちらも旧暦での呼び方で、丙午の年は60年に一度、庚申の日は60日に一度まわってくる。庚申の日は1年に6回あるが、年によっては7回になることもある。これを「七庚申」といい、この日は火災が多いといわれている。七庚申の日でなくても、山形県米沢市では、1年の最後の庚申に、家の棟木に左ないになった縄（通常は右ない）を結ぶと火伏せや泥棒除けになるといわれている。

火事が起こりやすい日というのではないが、^{みずのえたつ}「壬辰」の日は「水の上に立つ」という語呂あわせから、火伏せの行事を行うところも多い。例えば青森県十和田市では1月の壬辰の日に火祭の行事があり、各家の屋根に柄杓で水をかけてまわったというし、山形県米沢市のある寺院でも、その日に寺院に供えられた水は火伏せになるといって各家に持ち帰り、屋根にかけたという。

このような日は、本当に火事が多いのだろうか。もちろん現在では迷信だといわれてしまうだろうが、一年に何回か「火事が起こりやすい日」に、火伏せの行事を行うことは集落内での火災予防に有効だったに違いない。現在でも、過去に大火災の起こった日を教訓として、火伏せの祈禱を行うところもある。一年に何度か行われる火災予防週間なども、火事の起こりやすい季節に行われている。

現在行われている「火災予防の日」は、実は「火事の起きやすい日」なのである。

【大火のフォークロア参考文献】

＜火にまつわる俗信・予兆＞

能代市史編纂委員会 平成16（2004）年 『能代市史 民俗編』 能代市
秋田県師範学校 秋田県女子師範学校 昭和14（1939）年『総合郷土研究 秋田県』
平賀町誌編纂委員会 昭和60（1985）年『平賀町誌上』 平賀町
大雄町史編纂委員会 平成13（2001）年『大雄村史』 大雄村
立川町史編纂委員会 昭和36（1961）年『立川町の歴史と文化』 立川町
川西町史編纂委員会 昭和58（1983）年『川西町史 下』 川西町
佐井村誌編纂委員会 昭和46（1971）年『佐井村誌上』 佐井村
鷹巣町史編纂委員会 平成1（1989）年『鷹巣町史 第3巻』 鷹巣町
大館市史編纂委員会 昭和56（1981）年『大館市史 第4巻』 大館市
鹿角市史編纂委員会 平成8（1996）年『鹿角市史 第4巻』 鹿角市
八郎潟町史編纂委員会 昭和52（1977）年『八郎潟町史』 八郎潟町
米沢市史編纂委員会 平成2（1990）年『米沢市史 民俗編』 米沢市

＜家を建てる時の防火対策＞

山形市史編纂委員会 昭和51（1976）年『山形市史 別巻2 生活文化編』 山形市
鹿角市史編纂委員会 平成8（1996）年『鹿角市史 第4巻』 鹿角市
東通村史編纂委員会 平成9（1997）年『東通村史 民俗 民俗芸能編』 東通村
上小阿仁村百年誌編纂委員会 平成1（1989）年『上小阿仁村百年誌』 上小阿仁村
十和田市史編纂委員会 昭和51（1976）年『十和田市史下』 十和田市

＜火伏せのお守り＞

清野久雄「火事の話」 昭和57（1982）年『庄内民俗』 庄内民俗学会復刻合本
六ヶ所村史編纂委員会 平成9（1997）年『六ヶ所村史 下II』 六ヶ所村
十和田市史編纂委員会 昭和51（1976）年『十和田市史下』 十和田市
男鹿市史編纂委員会 平成7（1995）年『男鹿市史 上巻』 男鹿市
羽黒町史編纂委員会 平成8（1996）年『羽黒町史 別巻』 羽黒町

＜火事が起こりやすい日＞

東置賜郡史編纂委員会 昭和14（1939）年 『東置賜郡史 下巻』 東置賜郡
米沢市史編纂委員会 平成2（1990）年『米沢市史 民俗編』 米沢市
山内村郷土史編纂委員会 平成2（1990）年『山内村史』 山内村
増田町編纂委員会 平成9（1997）『増田町史』 増田町
十和田市史編纂委員会 昭和51（1976）年『十和田市史下』 十和田市

酒田大火並びに北部日本海地域都市の大火データベース

和暦	西暦	月	日	青森県			秋田県			山形県		
				場所	記事 (被害状況)	出典	場所	記事 (被害状況)	出典	場所	記事 (被害状況)	出典
慶長6	1601	4					酒田	最上義光による市中焼き払い (東禅寺城侵攻時)		酒田		報
慶安3	1650								平			
明暦2	1656	5	2							酒田	清十郎火事 (突抜より出火、704戸焼失)	報・復
寛文11	1671	2	23							鶴岡	上肴町より出火 (104戸焼失)	山百
延宝2	1674	4	28				秋田	外町四丁目より出火、31町の家屋1,960軒、土蔵45棟、寺家4軒焼失				
延宝3	1675	6		青森	下米町から浦町までの通りに至る150軒余焼失	角						
天和2	1682			青森	本町183軒焼失	平						
貞享2	1685	7	4									
元禄4	1691						秋田	久保田城下火災 (町数22丁、827軒、蔵数53焼失)	平	鶴岡	二百人町より出火 (272戸焼失)	山百
元禄7	1694	5	7				能代	地震による火災 (720軒焼失、412軒潰れ・半潰れ、土蔵136焼失、26潰れ、米14,900石、大豆594石、小豆388石、粟20石程焼失、死者300人、死馬2匹)	平			
元禄7	1694	7	9							鶴岡	五日町より出火 (730戸焼失)	山百
元禄8	1695	3		青森	米町から舘貝町まで204軒焼失	平						
元禄8	1695	9	4	青森	米町から出火、200軒余焼失							
宝永元	1704	4	4				能代	地震による火災 (758軒焼失、土蔵61焼失、米4,755石、大豆185石5斗、小豆241石焼失、死者58人、死馬2匹)	平			
宝永元	1704	5	10							鶴岡	茂右エ門火事 (十日町より出火、610戸焼失)	山百
宝永元	1704	6		青森	大町146軒焼失	平						
宝永4	1707	3	11							酒田	肴町より出火 (220余戸焼失)	復・大・湊
宝永4	1707	12	8							酒田	狛師町より出火 (北西風で本町・肴町・片町など718戸焼失)	復・湊
正徳元	1711	9	26							酒田	荒瀬町より出火 (100余軒焼失)	復・湊
正徳2	1712	4	17				鶴岡	嘉兵衛火事 (十日町より出火、774戸焼失)				山百
享保2	1717						本荘	町家256軒焼失	平			
享保3	1718	5					酒田	片町より出火 (277戸焼失)		酒田	火災 (鷹町で41戸、近江町で70戸焼失)	復・湊
享保3	1718											
享保5	1720	5	1				酒田	山椒小路より出火 (中袋小路・利右衛門小路・染屋小路など228軒焼失)				大・湊

和暦	西暦	日	場所	記事(被害状況)	出典	場所	記事(被害状況)	出典	場所	記事(被害状況)	出典
享保11	1726	5 8							酒田	上片町より出火(1900余棟焼失) ※1449軒焼失〔大〕/2077戸焼失	報
享保12	1727	4 12							酒田	上の山より出火(700戸焼失)	復・浸
享保12	1727	8 7							酒田	海墓寺より出火(200戸焼失)	復・浸
享保14	1729	2 14							酒田	放火のため狹師町より出火(700戸焼失)	復・浸
享保14	1729	9 15							酒田	和泉小路出火(806軒)	浸
享保15	1730					秋田	久保田城下火災(29町、本家1,017軒、長屋借家945間(ママ)、蔵数84、寺3ヶ寺焼失)※4月6日出火	平			
享保16	1731	3 17							鶴岡	源十郎火事(十日町より出火、793戸焼失)	山百
享保16	1731	9 15							酒田	如中刻和泉小路長兵衛家より出火(600軒程)	大
享保17	1732	7 8							鶴岡	五日町より出火(348戸焼失)	山百
享保19	1734	2							酒田	利右衛門小路より出火(100軒)	
享保19	1734	12 13							酒田	下袋小路より出火(133戸焼失)	復・浸
享保20	1735	5 13							鶴岡	五日町より出火(103戸焼失)	山百
元文元	1736	3	青森	安方町177軒焼失	平						
元文元	1736	10 17							鶴岡	上香町より出火(263戸焼失)	山百
元文2	1737	3 19	青森	安方町より出火、177軒焼失					鶴岡	新屋敷町より出火(337戸焼失)	山百
元文4	1739	3 4	青森	博労町など138軒焼失	平	能代	清助町より出火(1,502軒、寺10ヶ寺、土蔵67、穴蔵68、板蔵41、米307石、稻4,300束、塩大小10,223俵焼失)	平			
寛保元	1741										
寛保3	1743	9 23							酒田	林昌寺出火(100軒)	浸
延享元	1744	9 3									
延享4	1747	3	青森	鍛冶町など135軒焼失※3月22日鍛冶町より出火、大工町、米町、本町、浜町、鍛冶町など本家94軒、借屋41軒延焼	平						
寛延4	1751	3 29							酒田	屋四ツ時過荒瀬町甚助より出火(類焼家数2,399軒、内2,066軒町家、外は寺院土蔵170堂社獄屋陣屋御役家6軒瀬取船10艘、外に問屋蔵方米大小豆大小麦102,667俵)※荒瀬町より出火、延焼2,400戸、焼死者80名〔復〕/2,405戸〔浸〕	大
宝暦4	1754	2 17							酒田	出町より出火(204戸焼失)	
宝暦4	1754	6				能代	5町で174軒焼失、41軒潰れ家	平			
宝暦4	1754	9 13							酒田	観音小路より出火(410戸焼失)※389軒焼失、つぶし屋21軒〔大〕	復
宝暦6	1756	4				能代	馬口労町・中町・幸町・上川反町・羽立町焼失	平			
宝暦6	1756	6 28							鶴岡	新町より出火(260戸焼失)	山百

和暦	西暦	日	青森県			秋田県			山形県		
			場所	記事(被害状況)	出典	場所	記事(被害状況)	出典	場所	記事(被害状況)	出典
宝暦8	1758	3 1							鶴岡	大宝寺より出火(44戸焼失)	山百
宝暦8	1758	7 13							酒田	昼九ツ半時伝馬町より出火(御町家1,479軒、名子61軒、修験8軒、土蔵48丁蔵2軒焼失)	報・大復・大
宝暦12	1762	4 11							酒田	上ノ山出火(400戸)	湊
宝暦12	1762	9 13							酒田	地震火災、観音小路より出火、413戸焼失	
明和3	1766	1 29							鶴岡	南町より出火(32戸焼失)	山百
明和3	1766	1	青森	地震に伴う火災(倒壊307軒、焼失132軒)※焼失家屋127、潰家243、半壊99、小見世潰れ63、圧死者147、借家の焼失・潰れ145	平						
明和4	1767	5 17							酒田	山王堂町より出火(280戸焼失)	復・大・湊
明和4	1767					秋田	久保田城下火災(町屋1,862軒、足軽家100軒、寺口3ヶ所、土蔵804ヶ所焼失)	平			
明和6	1769	1 28							酒田	櫛物町より夜九ツ時出火(388戸焼失、戸数諸説あり)	復・大
明和6	1769										
明和7	1770	2 18	青森	米町で148軒焼失	平				鶴岡	十日町より出火(480戸焼失)	山百
明和8	1771	2 25							酒田	給人町より出火(256戸焼失)※245軒壊家1軒切潰家11軒土蔵2つ無棚舟21艘焼失〔大〕	復・大
明和9	1772	4 15							酒田	下片町より出火(2,182軒焼失、戸数諸説あり)※片町藤十郎より出火(藤十郎火事)、家数2182軒、土蔵124焼失	大
明和9	1772	5				能代	341軒焼失	平			
安永2	1773	3 28							酒田	太信寺より出火(220戸焼失)	復・湊
安永7	1778	4 2							鶴岡	一日市町より出火(317戸焼失)	山百
天明2	1782	7	青森	浜町、大町、米町、越前町など267軒焼失	平						
天明3	1783	4 17							酒田	下袋小路より出火(225戸焼失)	復・湊
天明3	1783	7 10	青森	浜町、大町、米町など被災、1,473軒焼失※7月11日、浜町206軒余焼失	青百						
天明3	1783	11 12	青森	投火により安方町から出火、安方町、大町、食町、寺町、鍛冶町、大工町、博労町、松森町、堤町、浜町など1446軒余焼失(青森町の約90パーセント焼失)							
天明3	1783					秋田	久保田城下火災(28町、竈数2,000余焼失)	平			

和暦	西暦	月	日	青森県			秋田県			山形県		
				場所	記事(被害状況)	出典	場所	記事(被害状況)	出典	場所	記事(被害状況)	出典
天明5	1785	4	17				酒田	巳中刻下袋小路より出火(206軒)		酒田	巳中刻下袋小路より出火(206軒)	大
天明6	1786	4	11				酒田	夜九ツ時淡路小路より出火(126戸焼失、類焼件数諸説あり)※4月12日出火〔湊〕		酒田	夜九ツ時淡路小路より出火(126戸焼失、類焼件数諸説あり)※4月12日出火〔湊〕	復・大・湊
天明7	1787	3	9				鶴岡	三日町より出火(160戸焼失)		鶴岡	三日町より出火(160戸焼失)	山百
天明8	1788	9	6				酒田	本町二丁目より出火(186戸焼失)		酒田	本町二丁目より出火(186戸焼失)	復・湊
寛政元	1789	4	5				酒田	夜九ツ時上小路より出火(類焼家数230軒、切漬家12軒、土蔵3ツ焼失)		酒田	夜九ツ時上小路より出火(類焼家数230軒、切漬家12軒、土蔵3ツ焼失)	大
寛政5	1793	1	18				酒田	伝馬町より出火(113戸焼失)		酒田	伝馬町より出火(113戸焼失)	報・復
寛政5	1793	10	1				酒田	染屋小路(945軒)		酒田	染屋小路(945軒)	大
寛政9	1797					平	能代	火災(732軒、土蔵24、寺院2、侍屋敷5、諸役所5、米蔵2、在番屋敷1軒焼失)	平			
寛政10	1798	2	28				酒田	六軒小路より出火(640戸焼失)		酒田	六軒小路より出火(640戸焼失)	復・大
寛政10	1798	3	10				酒田	本町より出火(180戸焼失)		酒田	本町より出火(180戸焼失)	復・湊
寛政10	1798	4	30				酒田	新米屋町より出火(597戸焼失)※590戸〔大〕		酒田	新米屋町より出火(597戸焼失)※590戸〔大〕	復・大
寛政10	1798	10	1				酒田	染屋小路(671軒)		酒田	染屋小路(671軒)	大
文化元	1804	4	2				酒田	内匠町(450軒)		酒田	内匠町(450軒)	大
文化元	1804	4	6				酒田	新町(300軒)		酒田	新町(300軒)	大
文化2	1805						本荘	御作事火事(町の大部分を焼失)	平			
文化3	1806	8	21				酒田	中袋小路より出火(360戸焼失)		酒田	中袋小路より出火(360戸焼失)	復・大
文化4	1807	4	8				鶴岡	運台火事(七軒町より出火、1,000戸焼失)		鶴岡	運台火事(七軒町より出火、1,000戸焼失)	山百
文化10	1813	4	14				酒田	筑後町大火(363戸焼失)		酒田	筑後町大火(363戸焼失)	復・大
文化11	1814	4		青森	米町、大町、浜町、蜷貝町、大工町、鍛冶町で600軒余焼失	平						
文化11	1814	5	16				秋田	土崎湊大火、本家249軒、長屋535軒、借家12軒、土蔵54軒、倉7軒焼失				
文化11	1814	8	12				鶴岡	荒町より出火(266戸焼失)		鶴岡	荒町より出火(266戸焼失)	山百
文政5	1822	2	11				酒田	夜染屋小路より出火(700軒近く類焼)※904戸焼失〔湊〕		酒田	夜染屋小路より出火(700軒近く類焼)※904戸焼失〔湊〕	大・湊
文政5	1822	12					酒田	出町2度の大火(合わせて2,144戸焼失)		酒田	出町2度の大火(合わせて2,144戸焼失)	復・大
文政11	1828	7	1				酒田	今町より出火(183戸焼失)		酒田	今町より出火(183戸焼失)	復・大
天保5	1834	5					酒田	下台町より出火(180戸焼失)		酒田	下台町より出火(180戸焼失)	復・大
天保10	1839	3	1				鶴岡	十日町より出火(340戸焼失)		鶴岡	十日町より出火(340戸焼失)	山百
天保10	1839	4		青森	寺町蓮心寺より出火、180軒焼失	平						
天保11	1840	9	4				鶴岡	荒町より出火(116戸焼失)		鶴岡	荒町より出火(116戸焼失)	山百
弘化2	1845	4	20				酒田	アマ鯛火事(淡路小路920)		酒田	アマ鯛火事(淡路小路920)	報・大
弘化2	1845	7	7				酒田	山王堂町より出火(204戸焼失)※407戸焼失〔湊〕		酒田	山王堂町より出火(204戸焼失)※407戸焼失〔湊〕	復・大・湊
弘化3	1846	7	3				酒田	山王小路より出火(407軒)		酒田	山王小路より出火(407軒)	大

和暦	西暦	月	日	場所	青森県 記事(被害状況)	出典	青森県 記事(被害状況)	場所	秋田県 記事(被害状況)	出典	場所	山形県 記事(被害状況)	出典
嘉永元	1848							秋田	久保田城下火災(内町2,500軒、外町2,000軒焼失)	平			
嘉永4	1851							本荘	シドケ火事	平			
嘉永6	1853	4		青森	大町で466軒焼失※大町大火(米百火災)、4月2日、家屋743軒余、土蔵10棟焼失	平							
嘉永7	1854	3						能代	畑町から西は残らず焼失	平			
安政3	1856	4	10					秋田	久保田城下火災(被災町数19町、本家495軒、長屋126軒、借屋163軒)	平		五日町・片町より出火(180戸焼失)	山百
安政5	1858												
安政6	1859	5		青森	大町、米町、浜町、寺町、鍛冶町、新町、安方町など904軒焼失※5月21日の大火で、家屋932軒余、土蔵28棟など焼失	平							
文久元	1861			青森	米町、大町、塩町、博労町、蛸貝町で403軒焼失※3月21日、手燭の不始末で下米町より出火	平							
文化2	1862	7	22					本荘	戊辰戦争による本荘城下の火災(庄内藩が放った火により土族屋敷136戸、寺1宇、町家528軒焼失)	平	鶴岡	上肴町より出火(120戸焼失)	山百
慶応4	1868							能代	長根町より北は全焼	平			
明治3	1870	6											
明治5	1872	3	25	青森	博労町大火、6町延焼、506戸・土蔵10棟焼失、死者3人、火傷10人余								
明治5	1872	5									酒田	台町より出火(123戸焼失)	
明治5	1872	11	6	青森	下新町大火(ぶし火事)、米町・大町・浜町全焼、1000軒余焼失								
明治6	1873			青森	大火								
明治12	1879							本荘	火災	平			
明治13	1880	6	1					能代	小走り火事(能代湊町上町より出火、1,268戸焼失)	秋百			
明治14	1881	11	1								酒田	20時50分上内匠町天満宮より出火(100戸焼失)	
明治15	1882												
明治16	1883	3	5	青森	大火						酒田	0時3分上小路出火(96戸焼失)	
明治17	1884	5						能代	金丸火事(大町より出火、上町・富町・畑町で600戸焼失)	平			
明治17	1884							本荘	火災	平			
明治19	1886	4	30					秋田	袈裟火事(“ダブル火災”、4月30日川端四丁目、翌5月1日中亀ノ丁上町より出火、3,554戸焼失、死者17人、負傷者186人)	秋百			
明治19	1886							能代	126軒焼失	角			

和暦	西暦	月	日	青森県			秋田県			山形県		
				場所	記事(被害状況)	出典	場所	記事(被害状況)	出典	場所	記事(被害状況)	出典
明治22	1889	3	11	鷹ヶ沢	120戸焼失	近						
明治22	1889			青森	大火							
明治23	1890	3	23				能代	上川反町より出火(大町まで800戸焼失)	平・角			
明治23	1890	3	23	青森	浜町から出火、346戸焼失	近	能代	500軒焼失	角			
明治24	1891	5	2	青森	安方町、104戸焼失	近						
明治27	1894	7	31	青森	鍛冶町から出火、257戸焼失	近						
明治27	1894	10	22							酒田	庄内地震に伴う大火(出火点9、倒壊1,558戸、焼失1,747戸、死者162人、負傷者223人)	報・平
明治27	1894	10	27	青森	167戸焼失	近						
明治29	1896	5	14	青森	165戸焼失	近						
明治30	1897	11	11	青森	194戸焼失	近						
明治30	1897						能代	350軒焼失	角			
明治33	1900						能代	507軒焼失	角			
明治33	1900	6								酒田	浜中大火、96戸焼失	
明治34	1901						能代	161軒焼失	角			
明治35	1902						能代	100軒焼失	角			
明治39	1906	4	30	青森	112戸焼失	近						
明治39	1906						能代	306軒焼失	角			
明治39	1906						能代	170軒焼失	角			
明治40	1907						能代	189軒焼失	角			
明治43	1910	5	3	青森	7,500戸余焼失、死者16人※中樞部7000余戸全焼・焼死26名、損害750万円	平						
明治45	1912						能代	121軒焼失	角			
大正5	1916						能代	264軒焼失	角			
大正11	1922						能代	161戸焼失	角			
大正15	1926	7	10	青森	浪打で大火、267戸焼失、損害136万余円	近						
昭和2	1927	4	3				秋田	下酒田町より出火(83戸、非住家46棟焼失)	秋百			
昭和2	1927	6	24				秋田	放火のため愛宕町より出火(203戸、非住家45棟焼失)	秋百			
昭和2	1927						能代	172軒焼失	角			
昭和3	1928	8	18				秋田	常盤町火事(保戸野南鉄砲町の飲食店より出火、遊廓街をひとなめにし、180戸焼失、死者1人)	秋百			
昭和5	1930						能代	156軒焼失	角			
昭和7	1932	1	17	鷹ヶ沢	246戸焼失、損害37万円	近						
昭和7	1932						能代	382軒焼失	角			
昭和11	1936						能代	115軒焼失	角			

和暦	西暦	日	場所	記事(被害状況)	出典	場所	記事(被害状況)	出典	場所	記事(被害状況)	出典
昭和15	1940	9 28				能代	能代港町養蚕町で列車の飛び火のため出火(248棟焼失)	秋百			
昭和15	1940	10 8	青森	古川大火、255戸焼失、損害84万余円※124棟233戸全焼	近						
昭和15	1940		青森	古川大火	平						
昭和17	1942		青森	舘貝大火	平						
昭和20	1945	7 28	青森	空襲による大火、住宅全焼15,000戸余、死者731人							
昭和20	1945	8 14				秋田	土崎空襲(110戸焼失、30戸全半壊、民間死者70人、重軽傷80人、軍人死者100余人)	秋百			
昭和22	1947	4 18	青森	列車の飛び火で青森市大火、北金沢・長島などで325戸焼失	近						
昭和22	1947	6 19	青森	青森駅前新興街大火、120戸焼失	近						
昭和22	1947		青森	北金沢大火※4月18日出火、325戸焼失	平						
昭和24	1949	2 20				能代	第一次能代大火(住家1,295棟、非住家942棟、1,755世帯被災、死者3人、重軽傷132人、損害47億円)	秋百			
昭和31	1956	3 20				能代	第二次能代大火(住家1,156棟、非住家319棟、1,248世帯被災、損害30億円)	秋百			
昭和51	1976	10 29							酒田	酒田大火(中町より出火、焼失1,774戸、被災世帯1,023、罹災者3,301人、死者1人、焼失面積22・5ha、被害総額405億円)※罹災者3,300人	山百・平

- 1) この表は、北部日本海地域の諸都市において、近世以降におこった大火(焼失件数約100軒以上)についてまとめたものである
- 2) 近世期に大火の多かった酒田では、浜中大火(明治33年)以降酒田大火(昭和51年)まで大きな火災が見られないのが一つの特徴である
- 3) 1976年(昭和51年)の酒田大火以降、我が国では震災などによるものを除いて、都市の大規模火災は発生していない
- 4) 記事内容には、大火につけられた名称や、出火場所、焼失戸数、被害状況などを取り上げた
- 5) 出典は欄を設け、以下の様に略記した。同じ大火で出典により内容が異なる場合は、※印の後に異なる内容を記し、その出典は〔 〕を付して示した

近：『青森県近代史年表』(1973)

青百：『青森県百科事典』(東奥日報社、1981)

秋百：『秋田大百科事典』(秋田魁新報社、1981)

報：東京消防庁火災予防審議会『1976年 酒田大火調査報告』(1977)

復：酒田市建設部『酒田大火記録と復興のあゆみ・・・』(1978)

山百：『山形県大百科事典』(山形放送、1983)

大：『酒田の大火 さかた・ふるさと学』(2003、酒田市の史編纂専門委員須藤良弘氏作成レジュメ)

湊：小松良博委員作成『酒田湊大火史』(角川書店)

角：『角川日本地名大辞典』(角川書店)

平：『日本歴史地名大系』(平凡社)

○出典のないものは本文参照のこと